

## 医療・介護の現場での口腔ケア について学べる一冊



超高齢社会のための

### 新編 専門的口腔ケア

要介護・有病者・周術期・認知症への対応

角 保徳 編著, 大野友久・守谷恵未 著

B5判変/184頁 定価: 本体 4,200円 + 税  
医歯薬出版 (2017年6月)

徳島大学大学院医歯薬学研究所  
口腔機能管理学分野 教授  
評・松山美和 (歯科医師)



本書はこれから要介護者などへ専門的口腔ケアを始めようとしている、また現在取り組んでいるが悩んでいる歯科衛生士・歯科医師に、さらに歯科・口腔保健系の学生にぜひ読んでいただきたい一冊である。表紙カバーをめくると内側に「口腔の専門家だからこそ担える“専門的口腔ケア”をより深く理解し、実践するために—」との言葉が添えられているが、まさにそのとおりの内容となっている。

まず、導入部のマンガ「なぜ歯科医師・歯科衛生士による口腔ケアが求められているのか」をご一読いただきたい。高齢者歯科関連の参考書には必ず、口腔ケアを含めた高齢者歯科の意義や重要性、必要性が記されている。本書の場合は、編著者の角 保徳先生がマンガのなかで「Dr. スミ」として、新米歯科衛生士と歯科学

生に口腔ケアの意義を簡単かついねいに、読者が理解しやすいように解説している。

本編は9章から構成され、1~4章では総論として「歯科を取りまわす、そして歯科医師・歯科衛生士の役割」、「口腔ケアの定義・考え方」、「患者さんの全身状態の把握」、「患者さんの口腔内状況とその評価方法」がまとめられ、5章以降は「“水を使わない口腔ケア” 実際の手技」、「症状に対応した専門的口腔ケアの手技」、「周術期口腔機能管理」、「認知症患者さんの口腔ケア」といった項目からなり、具体的な手技と症例・症状別の対応が紹介されている。そして最後の9章「超高齢社会の到来と歯科医療の将来展望」は、超高齢社会における歯科の役割の確立に向けた6つの提言で締め括られている。

日常臨床において要介護高齢者へ口腔ケアを行う際、口腔乾燥が激しく、乾燥痰や剥離上皮などの汚染物が舌や口蓋を広く覆い、この汚染物を無理やり剥がすとその下の粘膜が出血したり、口腔ケア中に患者さんが洗淨水でむせたりすることがある。編著者の角 保徳先生は著者の大野友久先生と守谷恵未さんとともに、このようなことを防ぐ、安全で効果の高い専門的口腔ケアの方法を研究してきた。そして現在、安全性とケア効果が科学的に実証された専門的口腔ケア法を確立した。それが5章で紹介されている“水を使わない口腔ケア”である。この手技の特徴は、新たに開発した口腔ケア専用のジェルの使用に加え、吸引<sup>しきん</sup>嘴管による吸引を併用した点にある。また、実際の手技は巻末付録のQRコードにアクセスすると、動画でも観ることができるように工夫されている。

本書の内容は前述のとおり具体的かつ実践的であり、写真やイラストも豊富なため、読みやすく、理解しやすい。また、私が皆さんにお勧めするように、読後はあなたも周囲の歯科専門職に勧めたくなる、臨床に即活用できる一冊である。